



## コーポレート・ガバナンス

シスメックスは、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして位置付けており、グループ企業理念「Sysmex Way」に基づき、経営の健全性・透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値最大化を目指しています。

コーポレート・ガバナンス強化については長年にわたり取り組みを進めており、監査等委員会の設置や社外取締役による監督機能強化、取締役会の実効性評価などを実施してきました。あわせて、コンプライアンス委員会や内部通報制度の設置、グループ全体でのリスクマネジメント機能強化に向けた体制整備など、持続的な成長に向けた基盤強化に取り組んでいます。



# 社外取締役メッセージ



社外取締役 独立役員  
指名委員、報酬委員  
福本 秀和

将来への布石や非連続な成長に向けた取り組みに着目しながら  
シスメックスが成し遂げたい未来実現に向け  
ともに喜びと成長を実感できるよう、全力で経営にあたります。

## 社外取締役への就任について

私は2021年6月、社外取締役に就任しました。私とシスメックスの関わりは、十数年前、銀行役員時代に遡ります。その関わりの中で、現状に満足せず、常に新たな挑戦を志向する企業という認識を強く持ちました。その後も、直接の関わりはないものの、環境変化に対応し、グローバルに変革を続ける姿を見てきました。夢やビジョンのもと、決めたことはやり抜くという企業風土は、私の座右の銘である「想いとパッションを持って事に当たる」に通じるものがあります。こうした価値観への共感や、ヘルスケア領域における提供価値への期待から、社外取締役への就任要請に対して即決した次第です。

私は社外取締役として、これまでに培ってきた、企業経営、財務・資本戦略、投資とリスクマネジメントといった経験・専門性を活かし、経営ビジョン実現に向け経営にあたります。特に私は、モノづくり企業への関心から、数百社の工場見学や対話を実践してきており、これらの経験も総動員し、シスメックス経営陣や社員との対話を積極的に行います。

## 2021年度の進捗と注目事項

2021年度は、中期経営計画の初年度として、順調なスタートを切りました。COVID-19の感染拡大が継続している中、各検査分野、各地域が着実に戦略を推進し、売上・利益も過去最高を更新しています。パンデミックや地政学

リスクの増大、紛争などの急激な環境変化に対しても、各拠点で機動的な対応を進めました。ヘルスケア企業として、患者さんのために医療を継続するという強い信念を感じています。

一方、忘れてはならないのは、これらの好結果は過去の布石、長期的視座での取り組みの賜物だということです。グローバルアライアンスの構築や直接販売体制の拡充、シスメックス国際試薬の統合においても、これまでの中長期的な戦略・投資が、2021年度に結実したということが出来ます。

こうした観点から、私は社外取締役として、将来の成長に向けた「種」に着目しています。検査分野で期待するのは、免疫検査および遺伝子検査で、将来のヘルスケアの進歩やシスメックスの成長には不可欠な分野です。これらの分野はグローバル企業との彼我の差が大きいものの、いかに事業化、収益化していくか、成長を加速させていけるかが重要です。また、メディカルロボット事業は、2021年度の本格導入により国内の認知度は高まってきたものの、今後の適用拡大やグローバル展開などは、これからが正念場です。非連続な成長が求められる領域であり、リスクも多様ですが、着実に事業展開を進めていきたいと考えているため、具体的なKPIとマイルストーンを設定し、多様な観点でモニタリングしていく構えです。加えて、重点課題と捉えているのは、推進途上であるIT・デジタル化です。現在はDX基盤の確立・整備に軸足を置いているところですが、今後はビッグデータの活用やお客様である検査施設とのデータ連携、さらにデジタル医療の展開など、今まで以上に全社的な議論が必要です。ヘルスケア領域において、デジタルやAI、画像認識技術はゲームチェンジャーになる可能性もあり、より一層、IT人材の獲得・育成や他社との提携・協業を加速する必要があります。

## サステナビリティ経営について

中期経営計画では、サステナビリティ経営の強化も重点テーマとしています。シスメックスには、社会課題解決に向け、ステークホルダー視点・長期視点で経営を行うというサステナビリティ経営の土壌があります。そのため、シスメックスにとって重要なのは、戦略としてPDCAを回し継続的に強化を図ることです。現在、各マテリアリティに照らして、具体的な目標・KPIを設定しており、取締役会でもその進捗をフォローしています。

2021年度はいずれの取り組みも着実に前進しています。その中で特に、注目するのは「魅力ある職場の実現」に向けた人材面での取り組みです。海外拠点におけるローカルマ

ネジメントの人材登用や権限委譲は進んでおり、Sysmex Wayの定着と相まって、前述した環境変化への機動的な対応につながっています。国内では、ジョブ型人事制度の対象を全社員に広げました。シスメックスにとっては、最適なタイミングであったと捉えており、今後、グローバルベースのタレントマネジメントや人材情報の活用にも注力していきます。私は、国内研究開発拠点のテクノパークに訪問した際にも、中堅・若手社員が試行錯誤を繰り返しながらも、意欲的に取り組んでいる姿に頼もしさを感じました。これからの活躍に大いに期待するところです。課題としては、ダイバーシティ推進の面から、女性や外国籍社員の登用・活躍が挙げられます。シスメックスには管理職層レベルの優秀な女性社員が数多く在籍しており、今まで以上に、彼女たちが生き生きと能力を発揮できる環境を整備すべく、全力で支援していきます。

ガバナンス面では、株主・投資家の皆様からも示唆されるように、サクセッションプランが課題です。家次社長は稀有な経営者であり、トップの交代は最大の経営課題の一つといえます。シスメックスには、複数部門のマネジメント実績を持つ、豊富な候補人材がいますが、ポスト家次として企業文化を育み、成長を率いるには、より多くの経験を積んでもらい、育成を加速する必要があります。私も2022年4月からは指名委員会、報酬委員会の委員となりましたので、サクセッションプランの拡充はもとより、次期長期経営戦略などの議論を通じて、候補人材の育成にも貢献していきます。

## 企業価値向上に向けて

ヘルスケアは、人間、そして社会にとって、最も関心が高く、成長力に富んだ領域です。

シスメックスは、メイドインジャパンの技術・品質、ヘマトロジー分野をはじめとする検体検査分野のリーディングカンパニーというポジション、グローバルでのバランスの取れた販売ネットワークなどの強みを活かしながら、DXを加速し、中期経営計画に掲げる重点分野（血液凝固検査・免疫検査・ライフサイエンス）や新規事業の成長を遂げることで、企業価値の向上を実現します。これにより、社会に対してより大きな価値を提供できるものと考えます。ヘルスケア領域自体のDXも重点課題です。デジタル・ITの活用に最も優れたヘルスケア企業として、グローバルでシスメックスブランドを確立していくことを期待しています。



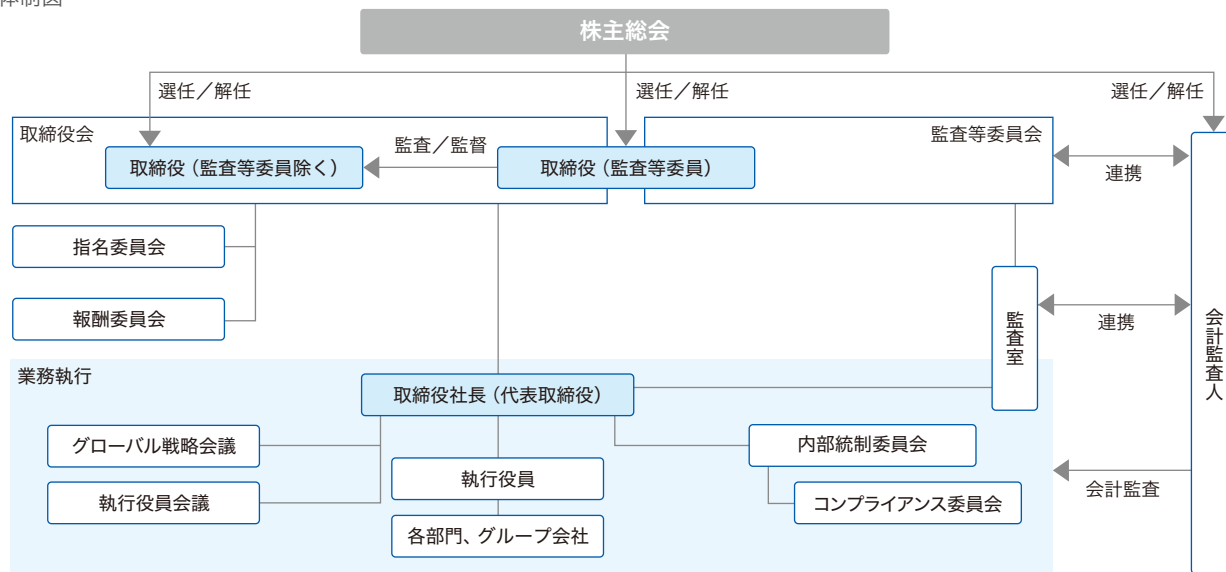
# コーポレート・ガバナンス

## 経営体制

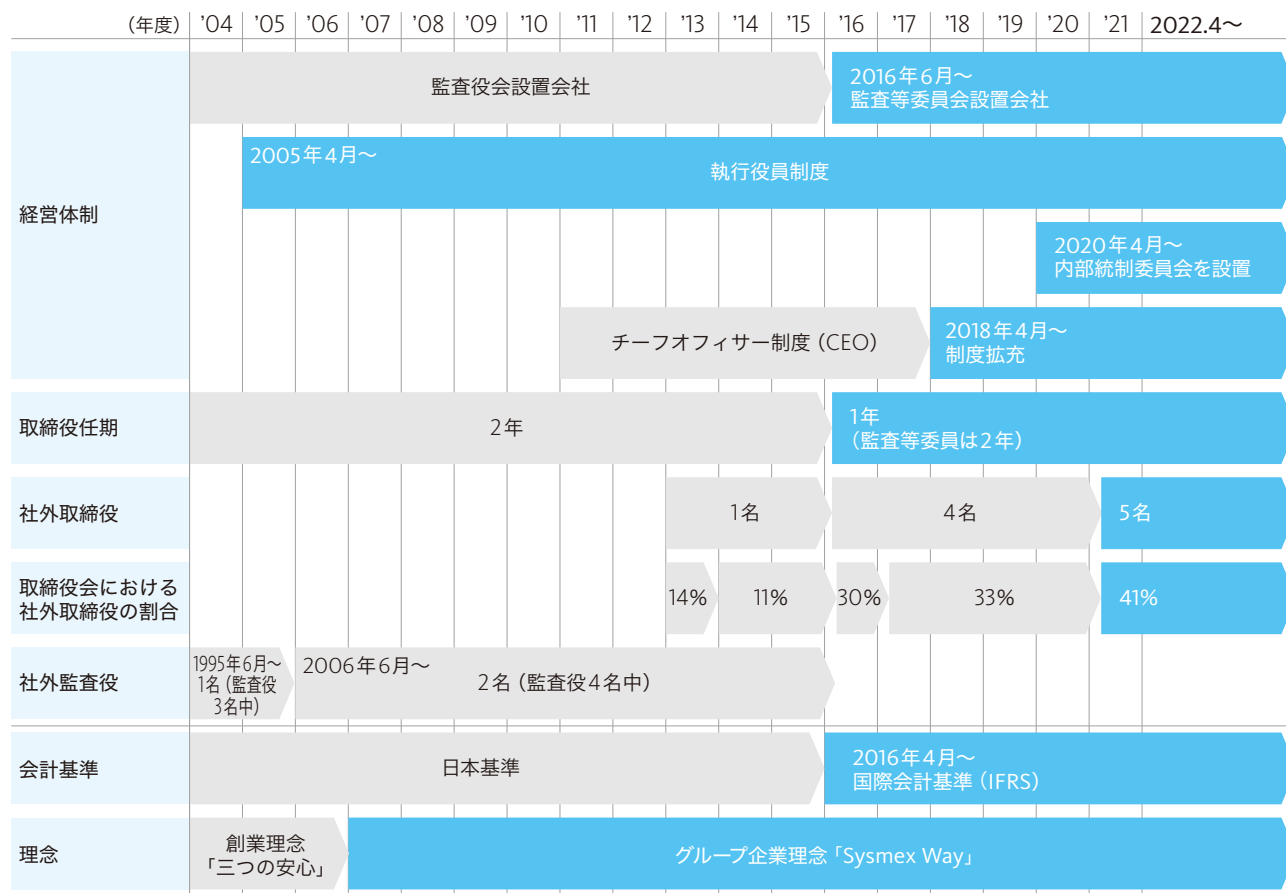
シスメックスは、監査等委員会設置会社制度を採用しています。監査等委員である取締役が取締役会における議決権を持つことなどにより、取締役会の監査・監督機能を強化するとともに、経営の透明性・客観性を向上させています。さらに、社外取締役の選任による取締役会の監督機能の強化・充実を図っています。また、業務執行の意思決定スピードを高め、事業環境の変化に迅速に対応するため、執行役員制度を導入しています。

現在の経営体制は、取締役12名（うち社外取締役5名）、取締役のうち監査等委員3名（監査等委員のうち社外取締役2名）、執行役員17名（うち取締役兼任5名）で構成しています。

■体制図



■コーポレート・ガバナンス強化の推移



2020年度には、持続的な成長の確保と中長期的な企業価値の向上に向けて、内部統制全般およびリスクマネジメントを対象とする内部統制委員会を設置し、グループ全体を俯瞰しながら体系的に内部統制の整備・運用・モニタリングを推進する体制としました。

さらに、役員の指名に関する取締役会の諮問機関として指名委員会を、役員報酬などの決定に関する取締役会の諮問機関として、報酬委員会を設置していますが、2022年度から各委員会のメンバー構成について、その過半数を独立社外取締役としました。

## コーポレートガバナンス・コードへの対応

シスメックスは、東京証券取引所の「コーポレートガバナンス・コード」の各原則のすべてに対応しています。詳細はWebサイトをご覧ください。

» Webサイト>企業情報>コーポレート・ガバナンス

## 取締役会の実効性

取締役会は、さまざまな知識、経験、能力を有する者により構成し、取締役会として全体のバランスを考慮し、適切な多様性と規模を確保するよう努めています。

また、取締役会の機能向上を目的として、すべての取締役（監査等委員を含む）への書面によるアンケート調査を実施し、集計結果を踏まえた取締役会での審議により、取締役会の実効性評価を実施しています。2021年度の評価結果は多くの項目で高い評価がなされ、取締役会は有効に機能し、その役割を適切に果たしていることが確認された一方で、さらなる実効性の向上への取り組みについて、引き続き対応していくことが確認されました。当社取締役会は今後も定期的に評価を行い、取締役会の実効性の維持・向上、および持続的な企業価値の向上を目指していきます。

■主要会議体概要

会議名	機能・内容	構成	2021年度開催回数
取締役会	経営に関する重要事項を審議	取締役	15回
指名委員会	役員の指名に関する取締役会の諮問機関	取締役社長、取締役(2名)、独立社外取締役(4名)	2回
報酬委員会	役員報酬などの決定に関する取締役会の諮問機関	取締役社長、取締役(2名)、独立社外取締役(4名)	1回
監査等委員会	主に取締役の職務の執行を監査する独立機関	監査等委員	17回
グローバル戦略会議	グループにおける中長期的な経営の方向性や重要な戦略・課題について討議・審議	取締役社長、担当執行役員、監査等委員(1名)*	13回
執行役員会議	グループにおける年度計画推進上の重要な案件について討議・審議・報告	取締役社長*、執行役員、監査等委員(1名)	17回

※オブザーバーとして参加

■主要会議体の構成メンバー（2022年6月24日時点）

氏名	会議体	取締役会出席率	指名委員会出席率	報酬委員会出席率	監査等委員会出席率
社内	家次 恒	100%	100%	100%	—
	浅野 薫	100%	100%	100%	—
	立花 健治	100%	100%	100%	—
	松井 石根	100%	—	—	—
	神田 博	100%	—	—	—
	吉田 智一	100%	—	—	—
	新牧 智夫	—※1	—	—	—※1
社外	釜尾 幸俊※2	100%	—	—	100%
	高橋 政代	100%	—	—	—
	太田 和男	100%	—※3	—※3	—
	福本 秀和	100%	—※3	—※3	—
	橋本 和正	100%	—※3	—※3	100%
	岩佐 道秀	100%	100%	100%	100%

(注)出席率は2021年度実績 ※1 2022年6月より構成メンバー ※2 2022年6月退任 ※3 2022年4月より構成メンバー

■実効性評価の概要

(構成)

取締役会の規模、独立社外取締役の割合、資質や経験はおおむね適切ですが、さらなる実効性向上に向けて、知識、経験、能力のバランスに加え、ジェンダーや国際性、職歴、年齢の面を含む多様性の確保についても引き続き検討を進めます。

(運営)

取締役会の議題を十分に議論するために必要な情報提供がなされており、さらなる実効性の向上を図るべく、社外取締役に対する事前説明、背景を理解するうえで必要な関連情報の提供など、運用改善にも取り組んでいます。また、社外取締役のみをメンバーとする意見交換会などを通じて、議論の活性化に向けた取り組みがなされています。一方、課題であった資料提供時期の早期化については、前年度に比べ改善が進みました。

(議題・審議の状況)

取締役会で取り扱われている議題や審議時間は適切であり、各取締役は議題の事前理解や情報提供に自ら努めるとともに、その知識・経験を活かし、議論は適正に行われて

います。経営上の重要な事項について、社外取締役による客観性・合理性のある意見も取り入れながら、意思決定は適切に行われています。

■取締役会での主な審議・報告事項(2021年度)

- 取締役の選解任、報酬に関する事項
- 取締役の業務執行状況に関する報告
- 取締役会の実効性評価
- 監査方針、監査計画、監査実施報告(監査等委員)
- コーポレート・ガバナンス方針
- グループの内部統制に関する事項
- サステナビリティに関する事項
- グループ業績、四半期・半期・通期決算
- グループにおけるデジタル化推進に関する事項
- 重要な投資案件に関する事項

監査等委員会の実効性

監査等委員は、取締役会をはじめとした各種の重要な会議への出席に加え、決裁書類の閲覧や子会社の監査、各取締役との意見交換などにより、取締役の職務執行状況を確認しています。

■取締役スキルマトリックス(2022年6月24日時点)

	氏名	性別	生年	着任	独立性	知見・経験							
						企業経営	経営・事業企画	グローバル	営業・サービス	研究開発	生産・SCM	IT・DX	財務・会計
社内	家次 恒	M	1949年	1986年		●	●		●			●	●
	浅野 薫	M	1958年	2014年		●	●		●		●		
	立花 健治	M	1957年	2014年		●	●	●	●		●		
	松井 石根	M	1961年	2019年		●	●	●	●		●		
	神田 博	M	1957年	2019年		●	●	●	●		●		
	吉田 智一	M	1964年	2021年		●	●		●				
	新牧 智夫	M	1966年	2022年				●				●	
社外	高橋 政代	F	1961年	2016年		●	●	●	●				●
	太田 和男	M	1955年	2019年	○	●	●	●			●	●	●
	福本 秀和	M	1955年	2021年	○	●	●		●		●	●	●
	橋本 和正	M	1953年	2020年	○	●	●		●		●	●	●
	岩佐 道秀	M	1956年	2020年	○	●	●			●		●	●

(注)上記は、各取締役の主なスキル・経験を表しており、すべてのスキルと経験を表すものではありません。

■スキル・経験の定義

項目	定義
企業経営	企業、団体などにおける代表者、業務執行取締役・役付執行役員等としての経営経験
経営・事業企画	経営企画、事業戦略・企画・推進などに関する実務・マネジメント・担当役員等としての経験、知見
グローバル	海外駐在の経験
営業・サービス	国内や海外の営業・マーケティング・技術サービスなどに関する実務・マネジメント・担当役員等としての経験、知見
研究開発	技術戦略、技術・商品開発、IT開発、知的財産等に関する実務・マネジメント・担当役員等としての経験、知見
生産・SCM	生産・調達・物流・品質などに関する実務・マネジメント・担当役員等としての経験、知見
IT・DX	IT・DX等に関する実務・マネジメント・担当役員等としての経験、知見
財務・会計	経理・財務・会計・経営管理などに関する実務・マネジメント・担当役員等としての経験、知見
人事・総務	人事・労務・人材育成・ダイバーシティ、法務・コンプライアンスなどに関する実務・マネジメント・担当役員等としての経験、知見

(注)各項目における該当の判断基準：通算3年程度の経験の有無で判断

また、監査等委員会は、会社の内部統制システムなどを活用して監査を実施し、内部監査部門に対しては、必要に応じて指示できる体制をとっています。会計監査人とは会計監査計画および会計監査結果の確認のほか、財務報告に係る内部統制などについて、相互に情報交換・意見交換を行うなど連携を緊密にとっています。

なお、監査等委員会での2021年度の主な検討事項は、監査方針・監査計画、内部統制システムの整備・運用状況、会計監査人の監査の方法および結果の相当性などでした。

役員報酬

取締役の報酬は成果責任を明確にした業績連動型の報酬制度です。監査等委員・社外取締役を除く取締役の報酬は固定報酬、業績連動報酬、非金銭報酬の3種類に大別しています。

固定報酬は取締役報酬、業務執行報酬から構成され、取締役の担当領域の規模・責任やグループ経営への影響の大きさに応じた役位別係数を用いて決定しています。業績連動報酬はグループ全体の連結業績と連動させて決定し、その指標は親会社の所有者に帰属する当期利益です。当該指標は連結会計年度における売上から経費や損益を差し引いた純粋な収益を示すものであるため、業績連動報酬に係る指標として適切と判断しています。非金銭報酬は中長期インセンティブ報酬とストック・オプションなどのその他株式報酬で、自社株式の取得や保有を通じて、株主視点を持つことによる企業価値向上、業績向上に対する中長

期インセンティブ向上や人材のリテンション強化などを目的としています。

また、取締役・執行役員は固定報酬の一定額を当社株式取得に充当しています。代表取締役は固定報酬の5倍、その他の取締役・執行役員は固定報酬の2倍の株式を保有することに努め、取得した株式は在任期間中継続して保有することとしています。2021年度末現在、代表取締役は61.3万株(固定報酬の104倍)、その他の取締役・執行役員(保有者のみ)は平均1.7万株(固定報酬の8倍)を保有しています。▶各取締役の保有株式 P79

なお、監査等委員である取締役および社外取締役の報酬は、固定報酬のうち取締役報酬のみです。

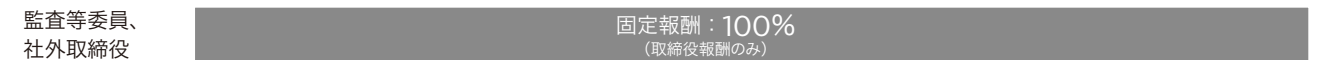
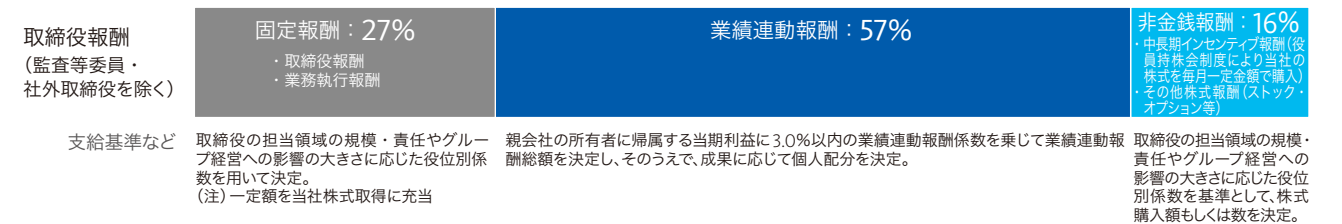
当社は取締役会の委任決議に基づき代表取締役が監査等委員を除く取締役の個人別の報酬などの具体的内容を決定しています。取締役会は、役員報酬の決定プロセスおよび報酬額の妥当性について、監査等委員3名(うち、社外取締役2名)で構成する監査等委員会にて確認をしています。

コンプライアンス

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」に基づき、コンプライアンスを「法令遵守とともに、高い倫理観に基づいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義しています。また、グループ全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめた「グローバルコンプライアンスコード」を制定し、教育・浸透を進めています。

▶サステナビリティデータブック「コンプライアンス P52

■役員報酬の内訳



■役員報酬の実績(2021年度)

役員区分	報酬等の総額	種類別の総額			対象となる役員の数(名)
		固定報酬	業績連動報酬	非金銭報酬	
取締役(監査等委員・社外取締役を除く)	698	191	395	111	8
監査等委員(社外取締役を除く)	24	24	—	—	1
社外取締役	34	34	—	—	5

■報酬等の総額が1億円以上であるもの

氏名	役員区分	会社区分	種類別の額			報酬等の総額
			固定報酬	業績連動報酬	非金銭報酬	
家次 恒	取締役	提出会社	52	131	27	211



# リスクマネジメント

## 事業リスクの考え方

シスメックスは、世界190以上の国や地域のお客様に対し、医療に不可欠な検査業務を停滞させないため、製品・サービスを安定的に提供する責任を担っています。そのため、どのような事態の中でも事業活動が継続できるように、自然災害や地政学的リスクだけではなく、各国の医療法規制の厳格化や製品の品質問題発生、情報漏洩なども重要なリスクと捉え、短期的・長期的な視点で対策を講じています。さらに、持続的な成長を支えるためのリスクマネジメントにも取り組んでおり、変化の激しい事業環境に素早く

対応することで、ステークホルダーの支持獲得および市場におけるポジショニングの維持・向上を目指しています。

## リスクマネジメント体制

シスメックスでは、内部統制委員会を設置し、戦略リスクも加えたリスク全般に関するマネジメント活動を推進しています。委員長は取締役社長が務め、担当執行役員、監査等委員（社外取締役を除く）をメンバーとし、社外取締役がオプザーバーを務めています。

また、災害やサイバー攻撃など実際に起こりうるリスクを想定し、医療機関への安定的な製品供給やサービスの提供、医療機関におけるシスメックス製品の安定稼働のため、事業継続計画(BCP)を策定しています。BCPでは、危機発生時の対応に関する規定やマニュアルの制定のほか、優先して供給すべき重要製品の選定なども含まれています。

2021年度に発生した、製品保管などを委託している日本の外部倉庫の火災においては、BCPに基づき、スピーディかつ確かな初動を実施し、途切れることなくお客様へ製品供給を実施しました。

情報セキュリティについても、社内の対策強化に加え、お客様の施設で使用されているシスメックス製品を經由した情報漏洩やサイバー攻撃を防ぐため、PSIRT (Product Security Incident Response Team)を設置するなど、安心して製品を使用いただけるよう取り組んでいます。その他、安定在庫保有の徹底や物流拠点の複数化などリスク分散強化も進めています。

今後もグループの総合力を発揮し実行力のあるBCP対応を行います。

### ■主な事業リスク

リスク	主な内容	主な環境要因	リスク発生による主な影響	主な対策
感染症のまん延など、その他事業活動に重大な影響を及ぼすリスクの発生	● COVID-19など、人類が免疫を持たない未知の感染症の世界的なまん延(パンデミック)などによる業務への影響	外部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループの設備・インフラへの甚大な被害や人的被害の発生による事業活動の停止</li> <li>● 医療機関の運営停止や検査需要低下に伴う業績悪化、キャッシュ・フローの悪化</li> <li>● 人材や労働環境の維持・継続困難などによる生産性の大幅な低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 被害低減および事業活動早期回復を目指した、グローバルなリスクマネジメント体制の構築(BCPの強化など)</li> <li>● 有事に柔軟に対応できるインフラの構築(リモートワークの導入など)</li> <li>● 検査試薬の開発・販売および受託検査ラボ開設など、検査体制の構築による感染拡大防止</li> </ul>
災害・重大事故および地政学的な問題などによる製品供給障害の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然災害・火災などの重大事故による製造拠点の罹災および生産活動停止</li> <li>● サプライヤーの業務停止などによる原材料調達障害の発生</li> <li>● 地政学的な問題による物流停滞や生産活動の停止</li> </ul>	外部	製品供給の停滞による売上低下および供給責任に起因する企業価値低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機器生産工場への免震構造の導入、試薬生産機能のグローバル分散および相互補完体制の構築</li> <li>● 原材料・部品の複数社からの調達や備蓄確保、取引先へのCSR調査の実施</li> </ul>
為替の変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 8割を超える海外売上高構成比</li> <li>● 新興国・開発途上国売上高の伸長に伴う基軸通貨以外の売上高構成比の拡大</li> </ul>	外部	グループ連結業績の悪化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 財務部門および現地法人における為替予約などによるリスクヘッジ</li> <li>● 試薬生産機能のグローバル分散</li> </ul>
医療制度改革の加速 医療法規制の厳格化や独自規制導入に伴う薬事承認取得の難易度上昇	● 国や医療機関の医療費適正化推進による競合環境の激化	外部	市場獲得機会の損失や値下げ圧力の拡大	● 医療経営効率化へ貢献する生産性の高い製品・サービスの提供
市場環境変化によるビジネスモデルの変化	● 承認取得期間の長期化による新製品市場導入の遅延	外部	市場獲得機会の損失や対応コストの増加	● 薬事部門および現地法人による最新の法規制把握および最適な体制の構築
市場環境変化によるビジネスモデルの変化	● ヘマトロジー分野の高い売上高・利益構成比	内部	グループ連結業績の悪化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 血液凝固・尿検査分野など、ヘマトロジー分野以外の事業ポートフォリオの拡充</li> <li>● 医療インフラの脆弱な国や地域のニーズに対応した製品・サービスの提供</li> <li>● 成長ドライバーの確立に向けた開発スピード加速</li> </ul>
製品・サービスにおける品質問題の発生	● 検査結果への重大な影響発生	内部	対応コストの増大や企業の信用力低下およびブランド力低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各国の法令、国際規格に準拠し、品質を維持・強化する仕組みの構築</li> <li>● 運用・設計品質、量産品質の向上および市場導入前の品質チェック体制の強化</li> <li>● 調達原材料・部品の品質向上に向けた、サプライヤー説明会の開催</li> </ul>
知的財産権に関するリスク	● 当社が保有する知的財産権の第三者による侵害、もしくは第三者保有の知的財産権の予期せぬ侵害に伴う知的財産紛争の発生	内部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自社技術の流出による市場シェアの減退やブランド力低下</li> <li>● 知的財産紛争に伴う訴訟コストや賠償金の発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研究開発・事業部門の従業員を中心に知的財産教育の徹底</li> <li>● 第三者による知的財産紛争の可能性低下への取り組み</li> </ul>
情報セキュリティリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サイバー攻撃などによる情報漏洩やネットワーク回線の障害などによる業務への影響</li> <li>● 自社製品を經由したサイバー攻撃などによるお客様施設内のネットワーク障害発生</li> </ul>	内部	事業活動の停止や企業の信用力低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ネットワークの二重化や日常における運用管理徹底</li> <li>● 不正通信検知やマルウェアの隔離などの仕組みの導入</li> <li>● 24時間の監視</li> <li>● CSIRT(Computer Security Incident Response Team)の設置</li> <li>● PSIRT(Product Security Incident Response Team)の設置</li> <li>● 従業員への教育の徹底</li> </ul>
M&Aに伴うリスク	● M&Aによる効果が想定を下回った場合の戦略や業績への影響	内部	グループ連結業績の悪化および事業戦略の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市場環境や財務的視点での十分な事前調査の実施</li> <li>● 経営・財務における管理体制の構築</li> </ul>
コンプライアンス違反	● 関連する法規制違反などコンプライアンス違反の発生	内部	事業活動の停止や企業の信用力低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従業員へのコンプライアンス教育の徹底</li> <li>● 内部通報制度の設置・運用</li> </ul>



# 取締役



浅野 薫

取締役専務執行役員  
CTO  
R&D・インキュベーション・  
MR事業担当

家次 恒

代表取締役会長兼社長  
CEO

立花 健治

取締役専務執行役員  
コーポレートマネジメント  
品質保証・薬事  
DX戦略担当



太田 和男

社外取締役  
独立役員

高橋 政代

社外取締役

福本 秀和

社外取締役  
独立役員



神田 博

取締役常務執行役員  
事業戦略担当

松井 石根

取締役常務執行役員  
国内事業、海外事業担当

吉田 智一

取締役常務執行役員  
R&D・インキュベーション・  
MR事業副担当



橋本 和正

社外取締役(監査等委員)  
独立役員

新牧 智夫

取締役(監査等委員)

岩佐 道秀

社外取締役(監査等委員)  
独立役員





# 執行役員 (2022年6月24日時点)

	<b>久保田 守</b> 上席執行役員 事業戦略副担当		<b>飯塚 健介</b> 上席執行役員 コーポレートマネジメント副担当 経営企画室長 経営管理本部長 秘書室長
	<b>小野 隆</b> 上席執行役員 生産・SCM担当		<b>彭 作輝</b> 執行役員 President and CEO, Sysmex Shanghai Ltd.
	<b>Frank Buescher</b> 執行役員 CEO, Sysmex Asia Pacific Pte Ltd. DX戦略副担当		<b>金川 晃久</b> 執行役員 事業戦略本部長
	<b>Alain Baverel</b> 執行役員 CEO, Sysmex Europe SE		<b>渡辺 玲子</b> 執行役員 臨床戦略本部長
	<b>渡辺 薫</b> 執行役員 日本・東アジア地域統括		<b>長井 孝明</b> 執行役員 システムエンジニアリング本部長
	<b>内橋 欣也</b> 執行役員 診断薬生産本部長		<b>Andy Hay</b> 執行役員 CEO, Sysmex America, Inc.

## 執行役員の主な担当

	グループ重点アクションの主な担当						マテリアリティの主な担当				
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	成長性・収益性の向上を目指した新製品の投入 加速・新興国戦略の推進	重点分野(血液凝固検査、免疫検査、ライファイエ ンゴ)への積極的な投資による高成長の実現	非連続な成長実現のための新たな事業の育成	顧客価値創造に向けたDXの実現	グループのデジタル化推進と 戦略実行に資する人材ポートフォリオの充実と 多様な人材を活かす魅力ある組織風土への転換	サステナビリティ経営の強化・ 実践に向けたビジョン策定・施策展開	製品・サービスを通じた医療課題解決	責任ある製品・サービスの提供	魅力ある職場の実現	環境への配慮	ガバナンスの強化
役職・担当											
浅野 薫											
立花 健治											
松井 石根											
神田 博											
吉田 智一											
久保田 守											
飯塚 健介											
小野 隆											
彭 作輝											
Frank Buescher											
金川 晃久											
Alain Baverel											
渡辺 玲子											
渡辺 薫											
長井 孝明											
内橋 欣也											
Andy Hay											